

# 一貫教育校の広場

幼稚園

横浜初等部

普通部

中等部

湘南藤沢  
中等部・高等部

高等学校

志木高等学校

女子高等学校

ニューヨーク学院  
(高等部)

## 女子高等学校の演劇会

●女子高等学校 教諭 松野大輔まつの だいすけ

「日光を見ずして結構と言うな」や「ナポリを見てから死ぬ」のような格言があるが、これの女子高版を作るとするなら、「演劇会を見ずして女子高を語ることはできない」といったところだろうか。演劇会での女子高生の姿にこそ、その本質が最もよく表れているのである。

演劇会は、「運動会」「十月祭かんなさい」とともに女子高の三大大行事と呼ばれているが、かつては十月祭の前夜祭劇として行われていた。現在は単独の行事として6月に行われており、今年で30回を迎えた。比較的歴史の浅い行事と言えるかもしれないが、三大大行事のなかで唯一、クラス単位での活動が中心となっているため、生徒たちの熱の入れようは他の行事と比べても、特に高いように思われる。



2018年6月15日に開催された第29回演劇会

している。本番の劇は正味30分程度だが、その30分の成功のために、クラス全員が入念な準備をしているのである。演劇会は学校行事であるため、時間面や設備面等に関するルール上の制約が少なくない。しかし、そのような制約の中でも、生徒全員が自分たちでできる最高の作品を作り上げようと工夫を凝らしている。どのクラスも自分たち

ちにしかできない劇を作ろうと試行錯誤し、実際に本番当日は、想像力と創造性に溢れた劇を上演している。上演される劇の質の高さもさることながら、その完成に至るまでの過程にも女子高らしさがある。各自が責任とプライドを持って自身の仕事を全うしつつ、クラスとして最高の劇を作ろうと努めているのである。演劇会においてこそ、女子高生の女子高生らしさが最も発揮されていると言える。

演劇会ではクラス全員が何らかの役割を担い、全員で劇の完成を目指す。キャストを務め舞台の上で演じる者、大きなベニヤ板に背景を描く者、キャストの演技に合わせて音響や照明を操作する者、本番当日に展示されるポスターやパンフレットに載せる原稿を作成する者、他にも数えきれないほどの多くの役割があり、それら全てを生徒が担当

演劇会自体は、一般公開していないため、残念ながらご覧いただくことができないが、もし皆さんの近くに女子高出身者がいるならば、ぜひ演劇会のことを尋ねていただきたい。きっと誰もが当時の思い出を熱く語ってくれるはずである。